

JBpress オンラインセミナー  
第4回 法務・知財DXフォーラム

企業価値の持続的成長を支援する、  
セイコーエプソン 知的財産本部の取り組み

2023年5月24日（水）  
セイコーエプソン株式会社  
執行役員 知的財産本部長  
小林利彦

# 「省・小・精」から生み出す価値で 人と地球を豊かに彩る

エプソンは、豊かな自然や文化に恵まれた信州で誕生しました。

そんな私たちが抱き続けてきたもの、それは「省・小・精」の技術で、人々の暮らしを豊かにしたいという想い、  
そして、自然の豊かさを守り、未来へつないでいきたいという強い想いです。

これまで世界に先駆けてフロンを撤廃するなど、つねに社会課題に目を向け、誠実に取り組んできました。

そのなかで追求してきたエプソン独自の「省・小・精」。

大きいこと、量が多いことだけが豊かさではない。省くこと、小さくすること、精緻さを突き詰めること、  
これこそが、自然環境にやさしく、人々のこころを豊かにできるものだと信じています。

「省・小・精」から生み出す、より大きな価値で、人と地球を豊かに彩っていきたい。

私たちは、そんな想いを実現していきます。

## 長期ビジョン「Epson 25 Renewed」

2021年3月、「持続可能でこころ豊かな社会の実現」に向けて  
「Epson 25 Renewed」を策定し、推進しています。

**Epson 25 Renewed ビジョン**

**EPSON**

「省・小・精の技術」とデジタル技術で  
人・モノ・情報がつながる、持続可能でこころ豊かな社会を共創する

環境 DX 共創

© Seiko Epson Corporation, 2023

10

| 全社業績目標            | 2020年度<br>(実績) | 2021年度<br>(実績) | 2023年度<br>(目標) | 2025年度<br>(目標) |
|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| ROIC <sup>†</sup> | 5.6%           | 7.3%           | 8%以上           | 11%以上          |
| ROE <sup>‡</sup>  | 5.9%           | 15.2%          | 10%以上          | 13%以上          |
| ROS <sup>§</sup>  | 6.2%           | 7.9%           | 8%以上           | 10%以上          |

[https://corporate.epson/ja/sustainability/environment/vision/#h2\\_01](https://corporate.epson/ja/sustainability/environment/vision/#h2_01)

## 環境ビジョン2050

エプソンは、2008年に2050年をゴールとした「環境ビジョン2050」を策定し、その実現に向け環境活動を展開しています。

2050年に「カーボンマイナス」と  
「地下資源<sup>¶</sup>消費ゼロ」を達成し、  
持続可能でこころ豊かな社会を実現する

達成目標

- 2030年：1.5°Cシナリオ<sup>¶</sup>に沿った総排出量削減
- 2050年：「カーボンマイナス」、「地下資源<sup>¶</sup>消費ゼロ」

アクション

- 商品・サービスやサプライチェーンにおける環境負荷の低減
- オープンで独創的なイノベーションによる循環型経済の牽引と産業構造の革新
- 国際的な環境保全活動への貢献

<sup>†</sup> 原油、金剛などの枯渇性資源  
<sup>‡</sup> SBTイニシアチブ (Science Based Targets Initiative) の  
ガイドラインに基づく科学的な算定と報告した温室効果ガスの削減目標

**環境ビジョン2050**

「Epson 25 Renewed」環境  
「持続性」と「資源循環」に取り組むとともに、  
環境負荷削減を実現する商品・サービスの提供、  
環境技術の開発を推進する

環境ビジョン2050策定  
2018/2021 環境ビジョン  
2050改定

2008  
2025  
2030  
2050

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

地球  
温暖化  
資源の  
枯渇  
水質・  
土壤汚染

社会要求  
貧困撲滅  
SDGs  
再生可能エネルギー  
資源  
サーキュラーエコロジー  
海洋プラスチック  
企業目標  
ESG投資  
SDG  
TCFD

持続可能な環境問題



\*1 2030年度までにGHG排出量を200万トン以上削減  
(2017年度比55%削減)

\*2 2023年度までCFE100達成

\*3 2021年の特許公開件数ランクイン(当社調べ) (2021/V1~12/31)

\*4 2020年度比

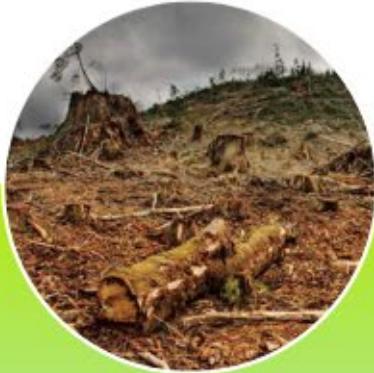
\*5 売上収益率と粗利

\*6 投下資本利益率

## 社会課題



エプソンが貢献できる取り組むべき社会課題を特定



環境負荷の低減



労働環境の改善



分散型社会を  
つなげる



インフラ・教育・  
サービスにおける  
質の向上



ライフスタイルの  
多様化

## インプット



創業以来培ってきた「省・小・精の技術」をベースに  
イノベーションを起こす

## 「省・小・精の技術」



- マイクロピエゾ
- ドライファイバー技術
- ロボティクス
- マイクロディスプレイ
- センシング
- 半導体・水晶
- 超微細精密加工技術

## マテリアリティ



社会課題解決に向けて、エプソンのマテリアリティを決定



### 循環型経済の牽引



### 産業構造の革新



### 生活の質向上



### 社会的責任の遂行





## 【オフィス・ホーム分野】

### ■レーザープリンター ⇒ 高速ラインインクジェットプリンター

環境に配慮した、低成本・高生産性を実現する印刷環境

EPSON  
SUSTAINABLE INNOVATION

循環型経済の牽引  
社会課題：脱炭素、資源枯渇、水資源の保全

消費電力量削減 約80%  
CO<sub>2</sub>排出量削減 47%以上

インクジェットプリンターと乾式オフィス製紙機によるソリューション

高線インクジェット複合機  
乾式オフィス製紙機 PaperLab

顧客価値：・オフィスにおける消費電力の削減  
・水を使わず、オフィス内で紙を再生

注冊に関してはP48をご覧ください

© Seiko Epson Corporation 2022

25

### ■インクカートリッジモデル ⇒ 大容量インクタンクモデル

環境に配慮した、低成本・高生産性を実現する印刷環境

EPSON  
SUSTAINABLE INNOVATION

循環型経済の牽引  
産業構造の革新  
社会課題：脱炭素、資源枯渇

消耗品のCO<sub>2</sub>排出量の比較

インクカートリッジモデル  
EW-452A (2019年)  
交換用カートリッジ 合計 381本

大容量インクタンクモデル  
EP-M553T  
増量サイズインクボトル 合計 38本

消耗品のCO<sub>2</sub>排出量 約73% 削減<sup>\*1</sup>

kg-CO<sub>2</sub>e  
31.3 ↓ 8.2

顧客価値：・消費電力の削減  
・資源消費量が少ない

\*1 EP-M553TとEW-452Aの比較。30,000ページ印刷時の消耗品のCO<sub>2</sub>排出量

© Seiko Epson Corporation 2022

26

オフィスにおける電力消費の内、10%はプリンター・複合機によるものですが、エプソンが提供するインクジェットプリンターは優れた消費電力性能により、レーザープリンターと比較してCO<sub>2</sub>排出量を47%以上※削減します。加えて、大容量インク搭載とシンプルな筐体構造により、消耗品、定期交換部品なども低減でき、資源の有効活用にも貢献します。

- 高速ラインインクジェット複合機LXシリーズのTEC値とENERGY STAR®画像機器基準Version3.0にて定められた60ppm機のTEC基準値で比較した場合の削減比率。

## インクジェットプリンティングの価値

- インクジェットは熱を使わないシンプルなプロセス



EPSON  
EXCEED YOUR VISION

## インクジェットプリンティングの価値

- インクジェットは熱を使わないシンプルなプロセス



EPSON  
EXCEED YOUR VISION

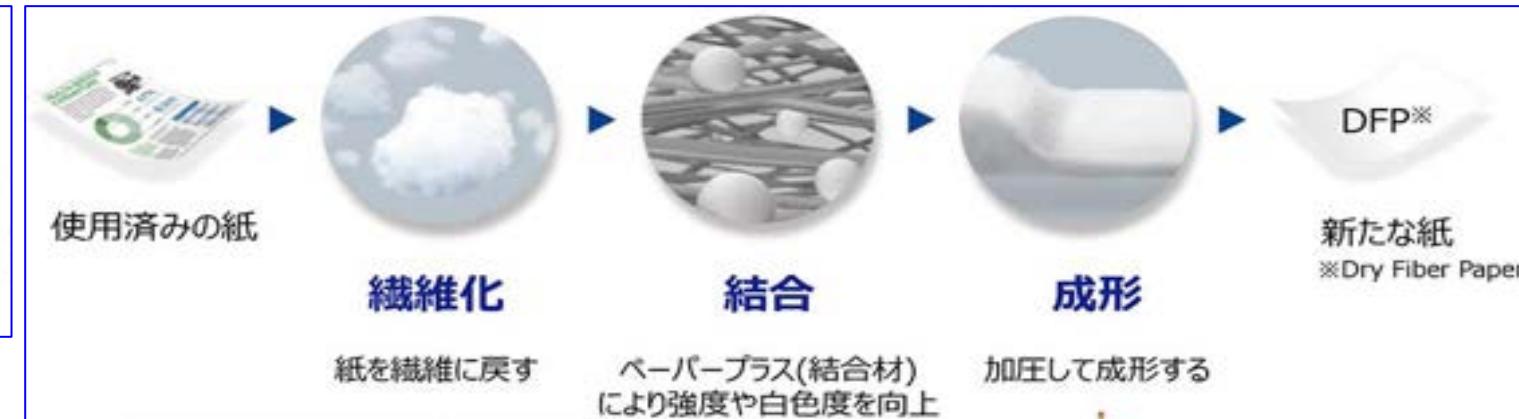
## インクジェットプリンターと乾式オフィス製紙機が創り出す「環境配慮型オフィス」

エプソンは、オフィスで環境貢献効果を生み出す「環境配慮型オフィス」を提案しています。

熱を使わない、エプソン独自のインク吐出技術で、電力・廃棄物・印刷コストを削減するインクジェットプリンターと、水を使わない紙再生技術で、水資源の保全・森林資源の有効活用を実現する乾式オフィス製紙機との組み合わせにより効果を発揮するソリューションです。これにより、「紙」の利便性を活かしながら、オフィス内での紙資源の循環と、コストダウンやセキュリティー強化といったお客様価値を提供します。



<https://corporate.epson/ja/sustainability/environment/products/customers.html>



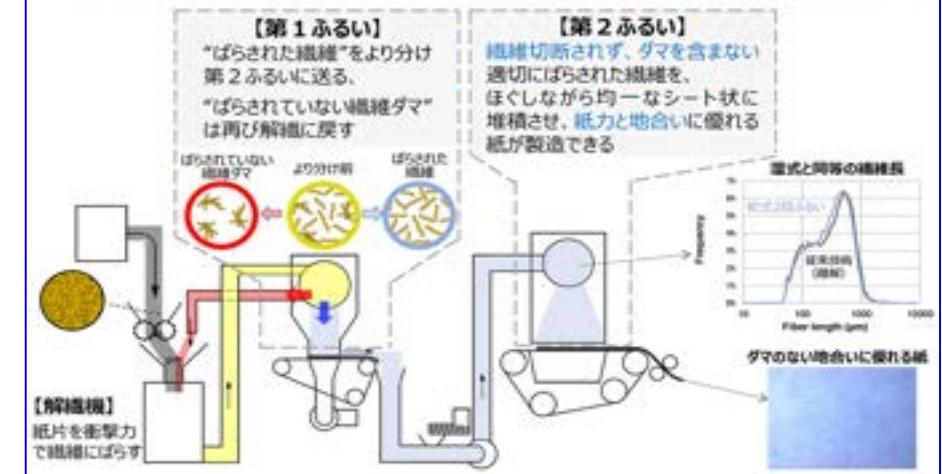
紙再生技術が優れて革新的であることに加え、環境教育教材や環境政策のシンボルとしての活用、資源循環の意識向上に寄与していることなどを評価され、一般社団法人産業環境管理協会主催の「第1回エコプロアワード」(旧エコプロダクツ大賞)において、経済産業大臣賞を受賞しました。

<https://corporate.epson/ja/technology/search-by-products/other/dft.html>

## 令和元年度全国発明表彰『朝日新聞社賞』

### ドライファイバーテクノロジーの中核技術

紙の特性差に影響されず、装置の調整なしに、適切な解纖が可能



<http://koueki.jiii.or.jp/hyosho/zenkoku/2019/asahi.html>

## 「KAMIKURU(カミクル)」プロジェクト: <https://kamikuru.jp/>

地域で生まれる古紙の活用について、みんなでアイデアを共創し、アップサイクルして地域に還元するという「紙資源を地域で循環させる」取り組みです。ペーパーレス化が進み、紙の価値があらためて問われるいま、日ごろ使っている身近な紙からはじめる新しいチャレンジをきっかけに、地球環境・経済・社会のあるべき姿を地域の一人ひとりが主人公となって考え、持続可能な未来をめざしていきます。

KAMIKURU

活動報告 KAMIKURUについて アップサイクルアイテム KAMIKURUを支える技術

お問い合わせ

プロジェクトへの参加・見学

取材をご希望の方

紙の循環で、つぎの地域共創を。

KAMIKURU

「2021北九州SDGs未来都市アワード」の企業部門「SDGs大賞」受賞



### 北九州市での取り組み

国が推進する「SDGs未来都市」に選定されている北九州市での取り組み事例をご紹介します。

障がい福祉サービス事業所を運営するNPO団体「わくわーく」による使用済み用紙の回収、PaperLabによる再生紙生産、アップサイクル品の製作・供給を行うことで、「KAMIKURU (カミクル)」プロジェクトを実現させています。

## 【商業・産業印刷分野】

### ■ アナログ印刷 ⇒ デジタル印刷

#### 省資源で効率的な生産・販売プロセス

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

循環型経済の牽引

産業構造の革新

社会課題：資源枯渇、消費者ニーズの多様化、分散化

既存の一般的なサプライチェーン



エプソンの価値提案



- 顧客価値：
- ・デジタル捺染で生産工程を大幅短縮。  
少量・短納期で効率良く生産
  - ・プロジェクターによる映像投写で、  
店舗の在庫・装飾物を削減



サイネージ用プロジェクター



## 省資源で高効率な生産・販売プロセスの実現



デジタル捺染機 Mona Lisa

既存の一般的なサプライチェーン



エプソンの価値提案



自分用のオリジナルファッショントをサステナブルにオーダー可能

消費者ニーズの多様化に加え、環境への配慮の重要性の高まりから、生産現場では多品種少量生産を実現する生産プロセスへの移行が求められています。デジタル捺染は従来のアナログ捺染と比較して生産工程を大幅に短縮できるため、多品種の商品を少量・短納期で効率よく生産を行うことが可能です。さらに、エプソンのインクジェットデジタル捺染は、独自のインクジェットテクノロジーにより精細なグラデーションや微妙な色調の再現が可能であるため、デザインの可能性を広げます。

## 省資源で高効率な生産・販売プロセスの実現



商品展示の例

左:プロジェクションマッピング  
右:デジタル捺染プリント



サイネージ用プロジェクター



デジタル捺染機 Monna Lisa

実店舗での商品展示をプロジェクターによる映像投射でサポートし、さまざまなバリエーションの商品の紹介と空間演出を可能にします。これにより、店舗で抱える商品の在庫や、空間演出用の装飾物を削減し、より、無駄の少ない生産から販売までのプロセスが実現します。

エプソンでは、デジタル技術を活用し、より省資源で高効率な生産・販売を可能とするソリューション提案を行い、持続可能な社会の実現に貢献していきます。



## プロジェクターへのレーザー光源の搭載

主に大きなイベントなどの演出で使われることを想定した高光束(高輝度)プロジェクターには、長時間安定して明るさや画質を維持できるなどの高い信頼性が求められます。また、このようなプロジェクターは、大ホールなど天井の高い場所に設置されることが多く、ランプ交換には手間と費用がかかります。

プロジェクターに約20,000時間の長寿命レーザー光源を搭載することにより、コンサート・イベントや会議中にランプ切れを心配する必要がなくなりました。

<https://corporate.epson/ja/technology/search-by-products/projector/laser-light-source.html>

令和3年度全国発明表彰『内閣総理大臣賞』

令和3年度 全国発明表彰  
「内閣総理大臣賞」受賞

本発明は、当社のレーザー光源プロジェクター(2015年発売)に、当社の高輝度レーザー光源プロジェクタードットに実現されています。レーザー光源プロジェクタードットは、シングルモードファイバと組み、複数束の高輝度化や偏光の小信号が可能ため、高輝度化が可能になります。また、高輝度化可能で、さまざまな角度から投影ができることがあります。さらに、本発明の実現により、高輝度化の実現をモジュラリ化で実現できることから、使用箇所に応じた柔軟性を有します。

発明の概要

本発明は、当社のレーザー光源プロジェクターの例です。高輝度レーザー光源を用いることで、光源の光出力を発生する点に着目し、单一のレーザー光源を投影面に直接射して発光させ(白色光)、高輝度化(高色光)を実現する。单一のレーザー光源(高輝度)とそれを合わせて白色光(白色光)を生成する。白色光(白色光+青色光)を生成し、これをプロジェクターの光源に用いました。投影結果、高輝度光源を生成させる白色光光源の構造としました。次に、プロジェクターに必要な明るさの調整は、光源輝度によりレーザー光源ドットの明暗度を調整する構造としました。光源輝度の大きさをドット内に変えると明るさが可変となります。ところが、レーザー光源の明暗度調整と白色光光源の明暗度調整が干渉し、投影でカラーリングが発生することができました。そこで2つの光源を位置設定し、映像を左右に分離して投影しました。

発明実施効果

単一色のレーザー光源を用いた大光量高画質プロジェクターの発明(特許第5928569号)

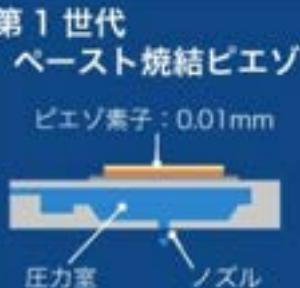
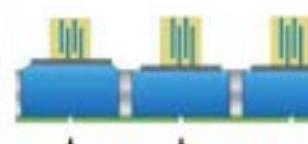
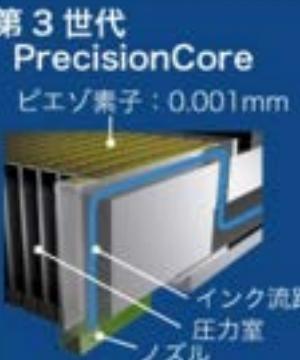
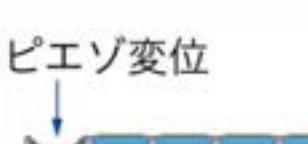
内閣総理大臣賞 発明者(VP企画設計部): 並岡 誠史、並光寺 誠  
発明実施功績賞 代表取締役社長 小川 泰範

本発明を実現したプロジェクターは、「森ビルデジタルアートミュージアム」(エプソン・チームボーラー)、(東京都江東区)において色鮮やかな投影映像による幻術的な空間演出に使われると、新しい映像表現を実現するシードとして芸術文化に貢献しています。

# マイクロピエゾ技術

※ エプソンホームページ「マイクロピエゾ技術」参照  
エプソン「サステナビリティレポート2022」P.38参照

EPSON

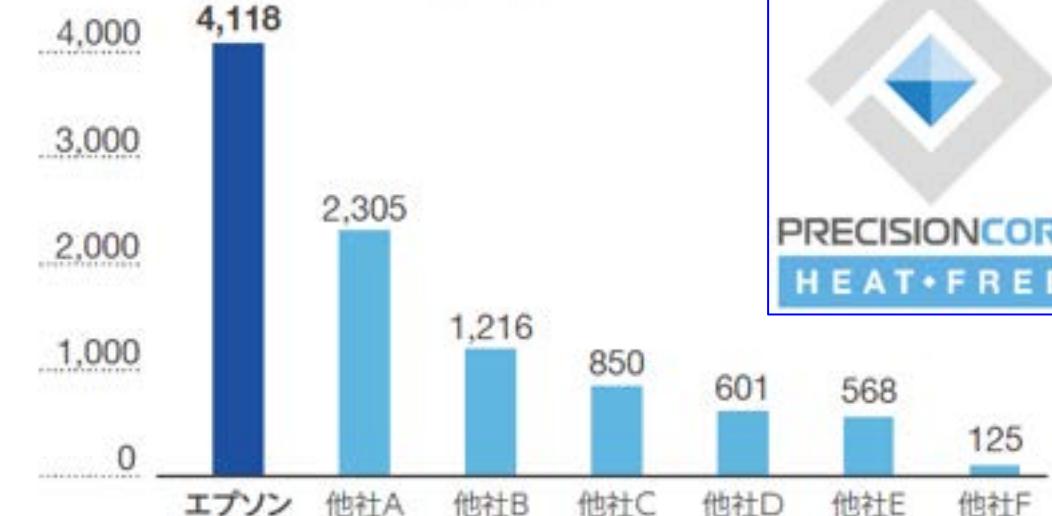
| 製造技術  | ヘッド断面<br>ノズル解像度  | ピエゾ変位量<br>(比率) |
|---|--|----------------|
| 第1世代<br>ペースト焼結ピエゾ<br>ピエゾ素子: 0.01mm<br><br>圧力室 ノズル   | 精密機械加工<br><br>120dpi=0.21mm  | 1              |
| 第2世代<br>MACH: 積層ピエゾ<br><br>ピエゾ素子<br>圧力室<br>ノズル  | 精密機械加工<br>+<br>MEMS<br><br>180dpi=0.14mm                               | 1.5            |
| 第3世代<br>PrecisionCore<br>ピエゾ素子: 0.001mm<br><br>インク流路<br>圧力室<br>ノズル<br>MEMS: Micro Electro Mechanical Systems | 薄膜<br>+<br>MEMS<br><br>ピエゾ変位<br>300dpi=0.08mm<br>dpi=nozzles per inch | 2.5            |

PrecisionCoreヘッドのノズル系は0.02mm (20um)



左: 孔のふちがガタガタでまっすぐ噴射できないノズルの例  
右: エプソンのノズル。エプソンの高精度な加工技術により、  
きれいな真円でインクをまっすぐに噴射することを実現

## ピエゾ式プリントヘッド関係特許保有数



\* 2022年7月20日現在、エプソン調べ

\* 出願日2002年7月1日以降の日本、米国、中国、欧州登録特許件数

<https://corporate.epson/ja/technology/search-by-products/printer-inkjet/micro-piezo.html>

<https://youtu.be/r8lk1wmPsfw>

## プリントヘッド 【インクジェット技術の進化】

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

- 耐久性・スケーラビリティ・インク選択の自由度が高く、どんな機種にも展開可能

「プリントチップ」を基本モジュールとして、ホーム向け  
プリンターからデジタル捺染機まで多様なヘッド構成を  
スケーラブルに低コストで実現

オフィス  
ホーム

高速  
インクジェット  
複合機

高速ラベル  
プリンター

大判  
プリンター

インクジェット  
デジタル  
ラベル印刷機

インクジェット  
デジタル  
捺染機

ヘッドとインクであらゆるプリントを置き換える



[https://www.epson.jp/osirase/  
2018/180709.htm](https://www.epson.jp/osirase/2018/180709.htm)

# 第三者との共創による新規市場開拓

※ エプソンホームページ「PrecisionCore」参照  
エプソン「サステナビリティレポート2022」P.37参照

EPSON

## インクジェットによるものづくりの革新

### さまざまな生産領域



#### グラフィック

- 車体へのダイレクト印刷
- ペットボトル・瓶などへの印字



#### ライフ

- 食品のデコレーション
- コスメティック

### 従来の印刷領域

#### ディスプレイ

- 有機ELの発光層形成
- 液晶パネルのカラー フィルター形成



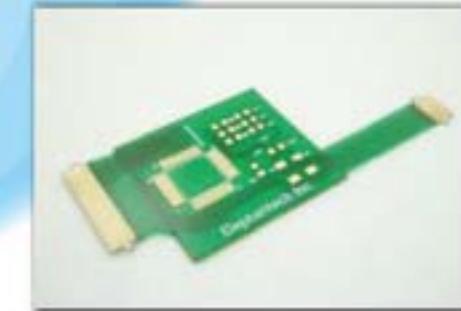
#### 生体組織

- バイオプリンティング
- 細胞工学



#### エレクトロニクス

- 回路基板の形成
- 太陽電池製造



※ 画像はイメージです。

## スタートアップ企業への投資

エレファンテック株式会社

エプソンと東大発スタートアップ企業エレファンテックが資本業務提携

- インクジェットヘッド供給などでパートナーシップ契約締結 -

[https://www.epson.jp/osirase/2019/190730\\_2.htm](https://www.epson.jp/osirase/2019/190730_2.htm)

<https://www.epson.jp/products/inkjet/application/casestudy/>

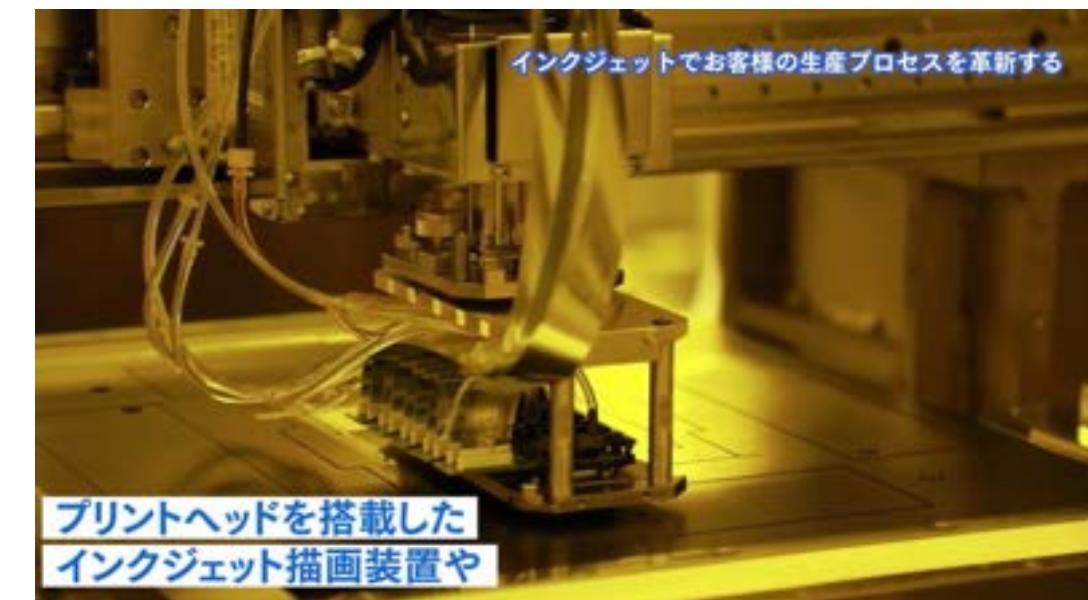


## オープンイノベーション インクジェットイノベーションラボ富士見

インクジェットによる新たなものづくりを目指す  
さまざまなパートナーとの共創拠点として、『イ  
ンクジェットイノベーションラボ富士見』  
をリニューアルオープン(2022/10/26)

<https://corporate.epson/ja/news/2022/221026.html>

<https://youtu.be/NBkOUDbA45E>



## 第三者との共創による新規市場開拓

エレファンテック株式会社



## 豊富なラインアップ



スタートアップ出資  
IJオープンラボ

ヘッド外販

商業・産業

オフィス

ホーム



## 微細加工技術

「省・小・精」から生み出す価値で  
人と地球を豊かに彩る



大規模設備投資

積極的な開発投資

特許

意匠

商標

契約

ノウハウ

ブランド

## Epson25 Renewed 達成に向けた 本部ミッション

社会

知的財産権だけでなく、ブランドやデータ等を含む広い意味での「知的財産」を価値に変換し、企業価値の持続的成長の実現を支援する

### 知財活動の価値階層



レベル 5

イノベーションを促進し未来を創り、  
ブランドイメージが向上

レベル 4

事業戦略と統合

レベル 3

知財で収益を上げる(直接・間接価値)

レベル 2

質への転換、管理費用を減らす

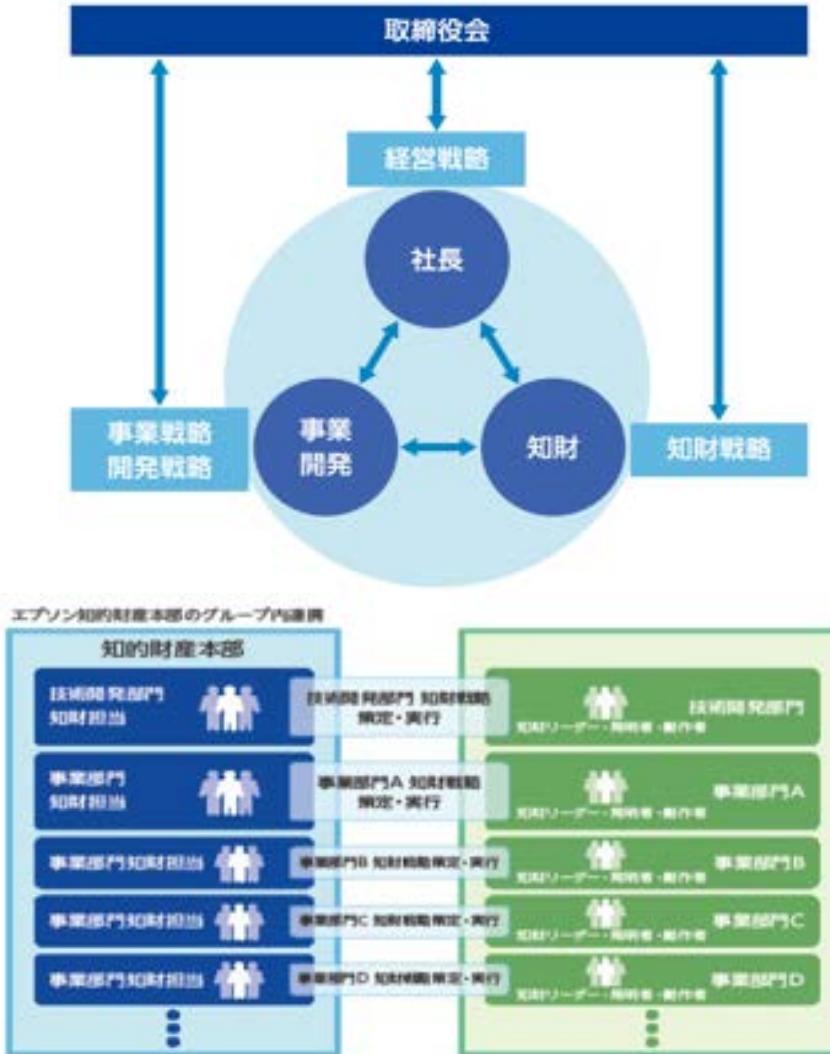
レベル 1

ノルマ型大量出願

#### 価値階層『レベル5』

知財リサーチを通じて  
社会課題を解決するイノ  
ベーションの促進に貢献  
し、産業構造の革新と循  
環型社会の牽引にも貢  
献する

# 経営戦略、事業・開発戦略と知的財産戦略の統合



エプソンでは、事業ごとの「事業部長／開発本部長、知的財産本部長による2者懇談会」を定期的に開催し、さらに「社長、事業／開発本部長、知的財産本部長による3者懇談会」も開催しています。

このように「経営」、「事業・開発」、「知財」の3社の距離が非常に近い関係であることは、エプソンの知財活動の大きな特徴であり、エプソンの独自のコア技術を守るために開発戦略や事業戦略と連動した知的財産戦略を策定するうえで強みになっています。

また、策定した戦略を遂行するため、エプソンの知的財産部門は技術開発部門および事業部門のそれぞれに対応する知財担当を設置しています。さらに、国内関連会社・海外関連会社の法務・知財部門、営業部門と連携して、世界各地域の知的財産に関する課題解決や契約締結、模倣品対策活動などをマネジメントしています。

加えて、知的財産戦略については定期的に取締役会で報告・議論し、戦略に反映しています。



## 「Epson 25 Renewed」と10年、30年先の目指す姿

エプソンが現在、設定している社会課題やマテリアリティの方向性は、2030年、2050年といった将来を見通しても、今後大きく変化していくとは考えにくく、「Epson 25 Renewed」で目指す「持続可能でこころ豊かな社会」の実現は、次期中長期経営計画においても変わらないのではないかと思っています。先々を見据えた取り組みとして、「Epson 25 Renewed」で分類した「新領域」の事業をエプソンの主柱事業に育てていくことが肝要です。経営資源の投入とともに、パートナーとの共創で確実なものとしていきます。現在、エプソンの知的財産活動への考え方は、以前とは大きく変化しています。自社の知財をいかに多く持ち、囲って、強みのある事業を展開していくか、というスタイルから、他社とエプソンが持つ知財を掛け合わせ新たな事業を生み出そうという意識の転換を図っています。社会においてどのような技術開発が行われ、企業はどのような力の入れ具合で取り組んでいるのか、情勢をしっかりと把握した上で、エプソンの強み、弱みを俯瞰的に把握し、私たちが取り組むべき領域や技術の見極めを進めています。こうした知的財産戦略は取締役会でも定期的に議論しており、新しい領域の事業開発に注力することで、「持続可能でこころ豊かな社会」の実現を目指します。

→詳しくは、P.35-36「知財戦略」を参照

## 機関投資家と社外取締役との対話

Q.

知的財産に関するガバナンスにおける取り組みや課題について教えてください。(松原)

**大宮**：エプソンの知財戦略は、良い方向に変わってきています。今まではどうプロテクトするか、クロスライセンスのような付加価値としてどう売るかに重点が置かれていましたが、最近はどのようにアライアンスを構築するかに重点が置かれています。知財に対し相手先がどのような周辺技術を持っているのかを調べた上でマッピングして、将来、例えば他社との合併など、ビジネスとしてどのように利益につながるかを分析しています。やはり知財とビジネスは絡み合っているわけですから、うまく連携していくというのは良い動きです。

**白井**：知財に関しては、先ほど大宮さんが言われた通りです。さらに付け加えると、エプソンは知財マップから新しいビジネスモデルが生まれることまで想定しようとしています。私もかつて知財を担当したことがあります、その経験も踏まえ、この動きは優れているなと思っています。

## 新規ビジネス創出活動の体制



### ① 提案型 IPランドスケープ

インバウンド

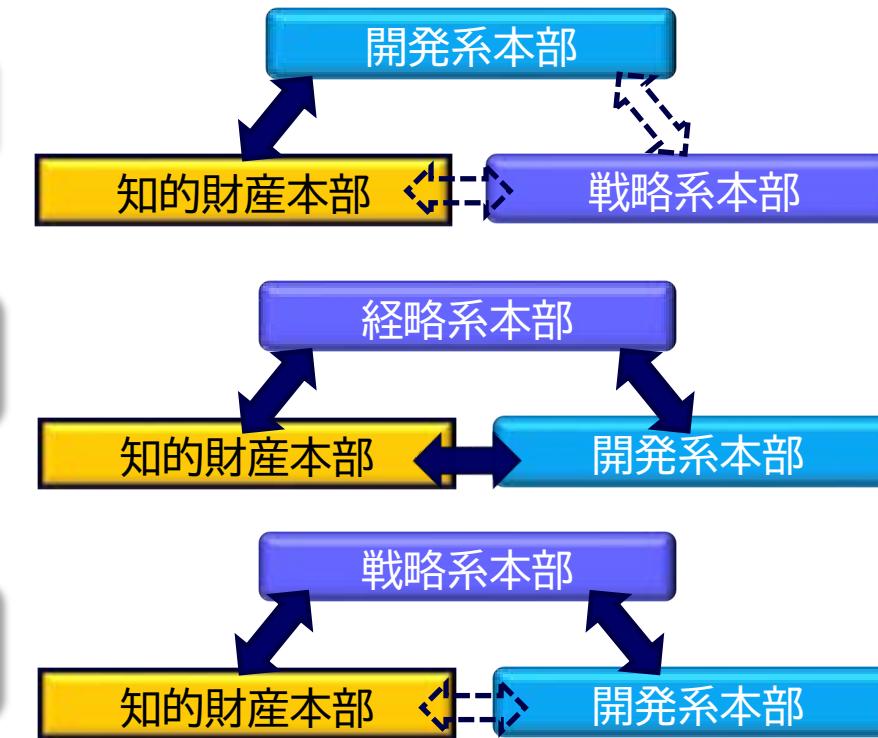
### ② 新規事業創出プロジェクトへの参画

インバウンド

アウトバウンド

### ③ M&A、出資候補企業の知財評価

アウトバウンド



## 事業戦略・開発戦略に沿ったIPランドスケープ

知的財産本部内に調査専門組織を設置してIPランドスケープによるイノベーション支援を加速



一般に「IPランドスケープ」とは、「経営戦略または事業戦略の立案に際し、(1)経営・事業情報に知財情報を取り込んだ分析を実施し、(2)その結果(現状の俯瞰・将来展望など)を経営者・事業責任者と共有すること」と定義されています(特許庁「経営に資する知財情報分析・活用に関する調査研究報告書より」)。

エプソンのIPランドスケープで最も重視していることは、会社／事業／開発の方針決定に貢献することです。分析した結果を単に情報提供するだけでなく、何らかの意思決定につなげることを重視しています。

このような考えのもと、「Epson 25 Renewed」の重点事項である「環境」の技術開発を支援するIPランドスケープを重点的に実施し、結果を事業責任者へ報告し、開発戦略の意思決定につながる提言を行っています。

また、「共創」のパートナー候補を知的財産の観点から評価を行うIPランドスケープも実施しています。



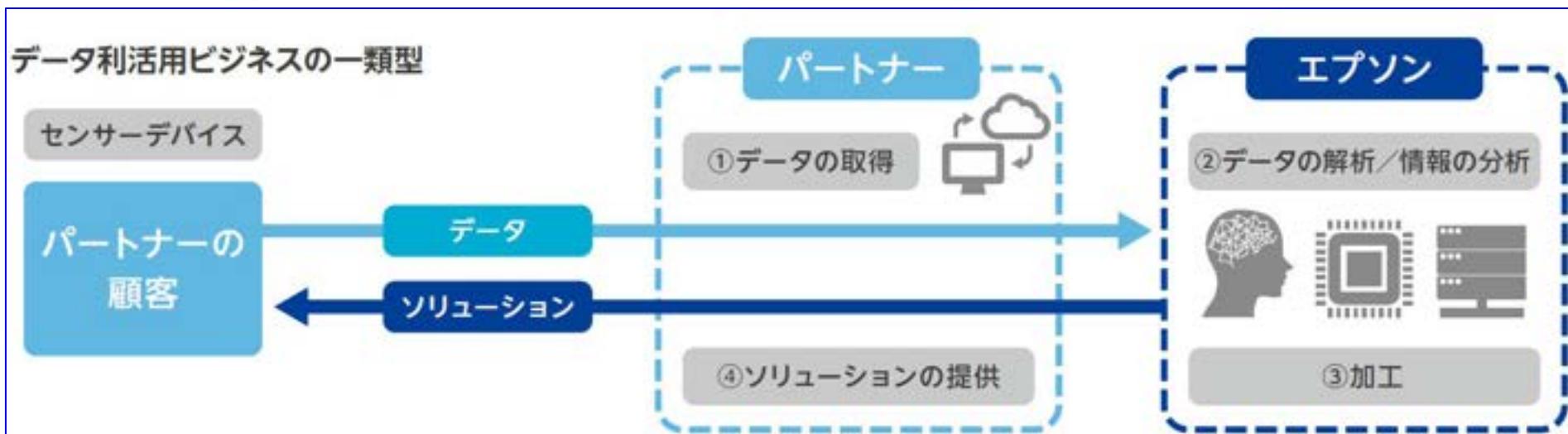
センシング技術とアルゴリズムによる  
パーソナライズされた保健指導の提供



多発する水害から住民を守るインフラ稼働に貢献



防犯センサー(M-A342V010) 防犯防水センサー(M-A542V010)



# ブランドプロモーション支援(営業支援)

※エプソン「統合レポート2022」P.36参照  
エプソンホームページ「レイアウト意匠紹介」参照

EPSON



## 意匠権

様々な設置環境にマッチするデザインでレイアウトが自由  
アンド本体が一体となったシンプルでスマートなデザインにより、お客様の環境に適した様々な設置環境にマッチします。

### 登録されたレイアウト意匠の紹介

SC-P8550D/T7750Dを用いたレイアウト意匠を紹介します。  
レイアウト意匠2件が新たに登録となりました。



日本意匠登録番号1691267 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691357 (公報リンク)



日本意匠登録番号1689446 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691263 (公報リンク)



日本意匠登録番号1689447 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691269 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691268 (公報リンク)



日本意匠登録番号1689451 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691266 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691265 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691340 (公報リンク)



日本意匠登録番号1691341 (公報リンク)



日本意匠登録番号1698704 (公報リンク)



日本意匠登録番号1698771 (公報リンク)

<https://corporate.epson/ja/technology/design/layout/>

# ブランドプロモーション支援(営業支援)

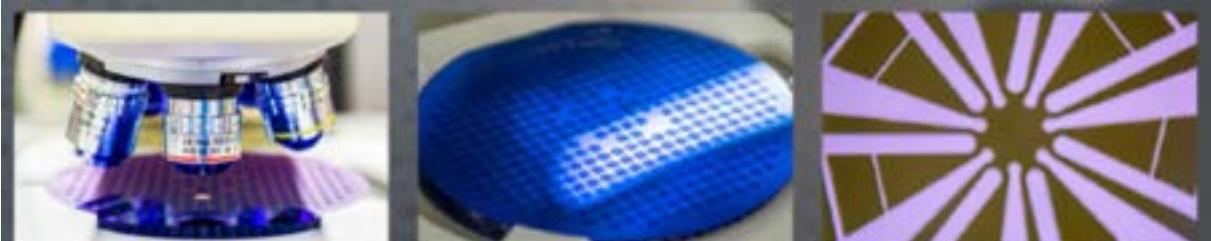
※ ホームページ「[ORIENT STAR](#)」参照  
エプソンニュースリリース「[文部科学大臣賞受賞](#)」参照

**EPSON**

## 特許權

シリコンがんぎ車。

2021年誕生の46系F8ムーブメントには、エプソンのMEMS技術を応用したシリコンがんぎ車を開発。高い精度を実現し、70時間の長時間駆動を可能にしました。



※1 特許第6891622号　※2 特許第6915602号　※3 特許第6908064号

[https://www.orient-watch.ip/orientstar/brand-value\\_manufacture.php](https://www.orient-watch.ip/orientstar/brand-value_manufacture.php)

## Cカーブに沿った権利活用戦略

### 1. 非許諾領域(自社実施あり、他社実施なし)

競争力のあるコア技術の特許を取得し、他社には許諾しないことで、競争力の源泉であるコア技術を守ります。

### 2. クロスライセンス領域(自社実施あり、他社実施あり)

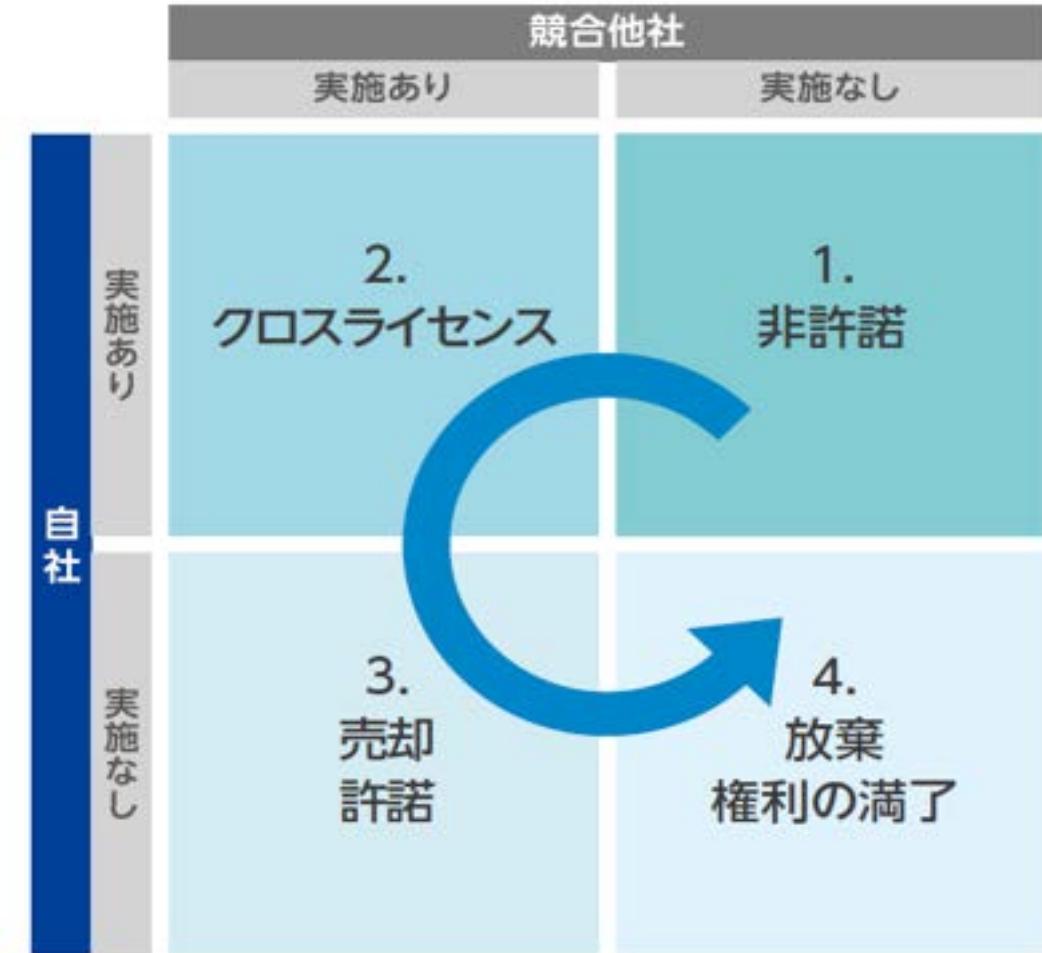
他社も実施したい特許を活用して、クロスライセンスなどをすることで、事業活動の自由度の確保に努めます。

### 3. 売却・有償許諾領域(自社実施なし、他社実施あり)

クロスライセンス締結によって事業の成長に貢献してきた特許を他社に売却もしくは有償で実施許諾することで資金回収(収益化)を行います。

### 4. 放棄・満了領域(自社実施なし、他社実施なし)

特許権の保有コストを鑑み、権利の活用可能性が低下した特許を積極的に放棄します。



## デジタルワークフローによる 電子回覧／電子確認

自社システムにて電子配信

画面からコメント入力

読み込みが必要な場合は印刷  
を許容し、読み込み後、即廃棄



捺印不要

紙ファイルの送受がなく、ロケーションフリーで迅速処理

## 電子サイン

画面上に譲渡証と宣言書が表示  
されるので、画面上でサイン入力



## A I 翻訳 活用可能性検討

[https://japio.or.jp/00yearbook/  
files/2022book/22 a 07.pdf](https://japio.or.jp/00yearbook/files/2022book/22 a 07.pdf)

## リーガルテック 活用可能性検討

※本日の説明は弊社からの発信情報に基づく説明となります。詳細は各ページ右上に「※」を付したURLリンク先のページをご参照ください。

※リンク先の主な発信情報は以下のとおりです。

- ・ エプソン「統合レポート2022」 [https://corporate.epson/ja/investors/publications/pdf/integrated\\_report/epson\\_ir2022\\_all\\_j.pdf](https://corporate.epson/ja/investors/publications/pdf/integrated_report/epson_ir2022_all_j.pdf)
- ・ エプソン「ESG説明会2022」 [https://corporate.epson/ja/investors/pdf/news\\_221013.pdf](https://corporate.epson/ja/investors/pdf/news_221013.pdf)
- ・ エプソン「サステイナビリティレポート2022」 [https://corporate.epson/ja/sustainability/report/pdf/2022/epson\\_sr2022\\_all\\_j.pdf](https://corporate.epson/ja/sustainability/report/pdf/2022/epson_sr2022_all_j.pdf)
- ・ エプソン「オフィス・ホームプリントイング事業戦略説明会」 [https://corporate.epson/ja/investors/pdf/news\\_221117.pdf](https://corporate.epson/ja/investors/pdf/news_221117.pdf)
- ・ エプソン「商業・産業IJP(完成品ビジネス)スマートミーティング」 [https://corporate.epson/ja/investors/pdf/news\\_211007.pdf](https://corporate.epson/ja/investors/pdf/news_211007.pdf)
- ・ エプソンホームページ <https://www.epson.jp/corporate/>

# EPSON